

令和7年度使用教科用図書調査専門委員会 調査研究報告書 観点・着眼点（ 種目名 道徳 ）

観 点		着 眼 点
1	学習指導要領との関連	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う道徳的諸価値についての理解を深めるための工夫・配慮の程度はどうか。
		自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めるための工夫・配慮の程度はどうか。
		道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための工夫・配慮の程度はどうか。
2	「コンパスぷらん （第4期名古屋市教育振興基本計画）」との関連	「自分に合ったペースや方法で学ぶ」ことができるような工夫・配慮の程度はどうか。
		「多様な人と学び合う」ための工夫・配慮の程度はどうか。
		「夢中で探究する」ための工夫・配慮の程度はどうか。
3 内 容	(1) 内容の選択	人権の尊重や教育の政治的中立に関する配慮の程度はどうか。
		生命の尊厳、自然、社会参画、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題や郷土の歴史や文化等を題材とした内容の選択についての適切さはどうか。
	(2) 内容の程度	生徒が深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えられる内容の適切さはどうか。また、多面的・多角的な見方や考え方ができるような題材を取り扱い、見方や考え方に偏りのない内容となるような配慮の程度はどうか。
	(3) 内容の構成	言語活動、及び問題解決的な学習や体験的な学習等の多様な学習に対応できるような内容構成の程度はどうか。また、振り返りの学習や評価に関わる内容の適切さはどうか。
4	タブレット端末の活用	タブレット端末を活用して学習の効果を高めるための工夫の程度はどうか。
5	表記・表現及び使用上の便宜等	本文記述と挿絵・イラスト・写真・図表等の関連や目次・注・写真・教材と内容項目との関連図・資料等の適切さはどうか。
6	印刷・造本等	「ユニバーサルデザイン化の観点から印刷の鮮明度、文字の大きさ、書体、色彩等」、「造本の堅ろうさや体裁」、「再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮」など印刷造本等の工夫の程度はどうか。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書（種目名 道徳 1／2）

観点	発行者	東京書籍		教育出版		光村図書		日本文教	
		評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
1	学習指導要領との関連		いじめ問題と生命尊重の教材をそれぞれユニット化し、集中して扱うことで道徳性を養えるよう配慮されている。コラムや付録教材を活用することで、教材を補充し、道徳性を養えるよう配慮されている。		「いじめ問題」「持続可能な社会」「生命の尊さ」をテーマに、複数の教材とコラムでユニットが構成され、道徳性を養うために系統的な学習ができるように配慮されている。	○	「道徳で学ぶ22のキーワード」では、道徳で学ぶ道徳的諸価値が生徒に親しみやすいイラストと言葉で示されている。「道徳 道案内」では、1年間の学習を見通すことができるようになっている。		いじめやよりよい社会に関わる内容については、複数の教材やコラムを使ってユニット化するとともに、年間に複数配置することで、道徳的諸価値の理解を促すことができるよう工夫されている。
			物事を多面的・多角的に捉え、広い視野で考えることができるコラムが掲載されており、教材の学びをさらに深められるよう工夫されている。		「やってみよう」では、直前の教材に関連した役割演技やリフレーミングなどの活動を取り入れ、生徒が物事を広い視野から考えられるよう工夫されている。	○	教材の中に話し合いを位置付け、意見を引き出す問い返しと言葉や話型が示しており、自他を認め合って学べるようによく工夫されている。		「学びを深めよう」では、対話的・協働的な学習場面が例示され、生徒が多面的・多角的に学習できるよう工夫されている。
			全教材に自己を見つめるための発問「見つめよう」が用意されており、生き方について考えを深めることができるようになっている。	○	教材末に「学びの道しるべ」を設けて、三つの問いを通して段階的に理解を深めることができるよう、よく工夫されている。		全ての教材に学習の手引き「考えよう」が設けてあり、自分自身のこととして考えたり見方を変えて考えたりできるように配慮されている。		各教材の末尾には、授業で学んだことを前向きに生かすための発問「自分に＋1」があり、道徳性を育むことができるよう工夫されている。
2	「コンパスぶらん（第4期名古屋市教育局基本計画）」との関連	○	速度機能付きの朗読音声を再生できるようになっており、生徒一人一人の個性に応じて教材を読むことができるよう、よく配慮されている。	○	教材の解説や関連動画等、学習に役立つ情報が「まなびリンク」に多数掲載されており、個別学習や協働学習、家庭学習でも活用することができるよう、よく工夫されている。		生徒の発達段階に沿った多様な題材を取り上げている。内容も見せ方も多様で、生徒の幅広い興味・関心に対応できるよう配慮されている。		別冊「道徳ノート」が準備されており、他者から学んだことを自由に書き留めたり、学期ごとの振り返りを書いたりすることで、自らの成長を感じることができるよう工夫されている。
			コラム「Plus」を通して、役割演技等の体験的な学習や、話し合いながら考えを深める問題解決的な学習が設定されており、友達と学び合うことができるよう工夫されている。		巻頭のオリエンテーションでは、より活発に深く話し合うためのポイントが示されており、学び合うことの大切さが理解できるよう工夫されている。	○	教材の特性に応じて、役割演技や思考ツールなどの活動の手立てが示されており、他者との対話を活性化し、学びを深められるよう、よく工夫されている。		対話的・協働的な学びの実現のため、グルーブトークや思考ツールを活用した議論の方法が示されており、話すことを非常に大切にしている。
			SDGsと関連付けた教材を配置したり、学習したことを広げたり深めたりすることができるコラム「Plus」が掲載されている。	○	コラム「ひろば」や二次元コードからアクセスできる「まなびリンク」では、教材の学習内容を深めたり広げたりすることができる内容が掲載されており、探究につながられるよう工夫されている。		読み物を通して考えたことを、活動を通してさらに深めていく教材を「まなびをプラス」として設定し、話し合いを通して物事の本質に迫ったり、多様な意見を取り入れるよさや難しさを感じたりすることができるよう工夫されている。		道徳科と他教科・活動などをつなぎ、生き方について視野を広げるためのコラム「視野を広げて」が設定されており、より探究的な学びにつなげられるよう工夫されている。
3	内容	○	様々な立場や状況の人を教材として取り上げることで、生徒がダイバーシティについて考えることができるよう、よく配慮されている。		教材とひろば（コラム）を組み合わせたユニットを重層的に設定して、道徳性に基づいた人権感覚を養うことができるよう配慮されている。		人権について取りあげたユニット「共に生きるために大切なこととは？」が設けられ、人権に対する意識を高めることができるよう配慮されている。	○	インクルーシブの考え方や多様性を重視した教材が配置されている。いじめ問題についても、人権尊重の視点から重点的に扱われている。
			喫緊の課題である「いじめの防止」「生命の尊重」について、三つの教材を組み合わせることでユニットとして配列し、重点的に取り組むことができるよう工夫されている。		現代的な課題である「情報モラル」「防災」「SDGs」などは、教材に加え、コラム「ひろば」でも扱い、学びを深めることができるよう工夫されている。		自他の生命を尊び、それらの生命を取り巻く自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことができるよう、生徒の発達段階と学校生活に即した教材が配列されている。		人間の弱さや苦悩、奮起する強さや気高さを感じられるよう、先人や今を生きる人物の多様な生き方に触れ、様々な価値観や生き方に出会える教材が配列されている。
			ユニット「いじめのない世界へ」、「いのちを考える」が配置され、複数教材を通して多面的・多角的にいじめ問題や生命の尊厳について考えることができるよう配慮されている。		いじめ、持続可能な社会、生命の尊さなどをテーマとし、複数の教材とコラムを組み合わせたユニットを重層的に設定している。		一つ一つの教材を独立させるのではなく、いくつかの教材が関わりながらテーマに向かって考えられるように、ユニットを構成し、よりよく生きることに、様々な観点でアプローチできるよう工夫されている。		いじめやよりよい社会に関わる内容については、複数の教材やコラムがユニット化され、年間に複数配置されている。これにより、1年間の学習の流れを重視しながら、より深い学びが得られるよう工夫されている。
4	タブレット端末の活用		コラム「Plus」を通して、役割演技等の体験的な学習や話し合いながら考えを深める問題解決的な学習が設定されている。巻末に学期ごとに学習を振り返って記述できる「自分の学びを振り返ろう」が用意されている。		「やってみよう」では、モラルスキルトレーニングや役割演技等の体験的な学習、問題解決的な学習が設定されている。巻末には、「道徳科の学びを振り返ろう」「1年間の学びを振り返ろう」が用意されており、生徒の成長を見取り、評価に生かすことができるよう工夫されている。	○	「チャレンジ」として、役割演技や、自ら立てた問いに取り組む活動が設定されており、多様な学びができるよう工夫されている。最終教材では、巻末折込の「まなびの記録」に書き留めてきた感想を読み返し、1年間の自分の成長を見つめることができるよう、よく工夫されている。		問題解決的な学習に適した教材には、「学びを深めよう」が設定され、主体的に問題をつかみ、対話的に学習できるよう工夫されている。また一部に「学びを深めるためのヒント」があり、資料や思考ツールが例示され、より多面的・多角的に、深い学びとなるよう配慮されている。
		○	人物教材を中心に、教材の理解を支援する動画を二次元コードから視聴することで、考えを深めることができるよう工夫されている。	○	二次元コードから、「教材解説」「外部リンク」「ウェブツール」などのコンテンツにアクセスすることができ、考えを深めることができるよう、よく工夫されている。		教材で取り上げる人物のインタビューや教材の理解を補足する資料、朗読音声などがあり、教材の理解を深めることができるよう工夫されている。	○	二次元コードから心情メーターやシンキングツールなどを使用することができ、生徒が考えを表現しやすいよう、よく工夫されている。
5	表記・表現及び使用上の便宜等		中学生にとって難しい表現を避けることで、生徒が読み方につまずき読解に時間がかからないよう配慮されている。		漫画や絵本を用いた教材、写真から考える教材など、読むことの負担を軽減し、全員が話し合いに参加できるよう配慮されている。		教材に関わる絵・写真が適所に配されている。中心的な発問の場面に必ず挿絵が配されており、生徒が教材を理解しやすいよう配慮されている。		登場人物の性別、人種、身体的な特徴などに偏りや不適切な扱いがないよう、教科書全体を通じて人権に配慮された表記・表現になっている。
6	印刷・造本等		ユニバーサルデザインフォントを使用し、すべての生徒の色覚特性に適應するようデザインされている。		カラーユニバーサルデザインを含め、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。	○	ユニバーサルデザインフォントをはじめ、すべての人が使いやすい編集とデザインが心掛けられている。目次は、色覚特性をもつ生徒に配慮して色数を抑えている。	○	カラーバリエーションを含めたユニバーサルデザインの観点に立った編集となっている。文章の途中でページをめくることにならないよう、レイアウトがよく工夫されている。

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書（種目名 道徳 2／2）

観点	Gakken		あかつき教育図書		日本教科書	
	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
1 学習指導要領との関連		「さまざまなテーマで学ぼう」では、道徳的諸価値を含んだ現代的な課題を生徒に親しみやすいイラストで示している。		「いじめ」「情報モラル」「キャリア」をテーマにユニットが構成され、道徳的諸価値の理解を促すことができるよう工夫されている。		学習指導要領の内容項目順に教材が配置され、教科書の順番に縛られることなく、各学校の年間指導計画に基づき、自由に教材を並び変えることができるよう配慮されている。
		特設ページ「クローズアップ」では、教材に関連した情報や多様な意見、内容項目が異なる視点からの情報などを扱い、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。		各学年に「マイ・プラス」が設置され、生徒が様々な立場から、多面的・多角的に考えることができるよう工夫されている。		巻末付録に「ウェルビーイングカード」をつけ、生徒自身がよりよい自分を探求することができるように工夫されている。
		各学年に各教科等での道徳性の育成につながる教材を用意し、発達段階を考慮して系統性をもって学習することができるよう配慮されている。		教材の末尾に「自分との対話」が設定されており、自分自身や道徳的価値について、さらに考えることができるよう工夫されている。		教材学習後の発問「考えよう」「深めよう」によって、考えを深めたり、物事を多面的・多角的に捉えたりすることができるよう工夫されている。
2 「コンパスぶらん（第4期名古屋市教育局基本計画）」との関連		二次元コードを使うと、関連動画が出てくるだけでなく、クラウドを使って意見を共有できたり、学んだことを記録したり、すぐにインターネットで検索できたりと、タブレットを活用して自分のペースで学べるような工夫されている。		二次元コードを活用して、導入や終末に合わせた動画をそれぞれ用意することで、自分で学ぶ際にも、教材の世界に入る助けとなり、学びを深められるよう工夫されている。		教材を通して考えたことを自由にメモすることができる枠が多数設けられており、グループワークや自分の考えを見つめ直すときに活用することができるよう工夫されている。
		「深めよう」では、ペアやグループでの話し合いの仕方や問いが具体的に示されており、周りと学び合い、考えを深められるよう工夫されている。		各学年での発達段階を考慮しながら、生徒に身近な題材だけでなく、大人が読んでも心に残るような題材を選ぶことで、生徒同士の対話だけでなく、教師や保護者とも対話が深まるよう工夫されている。		自己内対話だけでなく、グループワークで考えを交換しながら、見方・考え方を深めることができるよう工夫されている。
		2ページから3ページにかけて、たくさんの絵や写真の中から「今、夢中になっていることは何だろう」と、生徒に考えさせるページがあり、夢中に探究することにつなげることができるような工夫が見られる。	○	補助資料「Thinking」では、授業の終末や事後に読むことで感動や思考を促す工夫がされている。また、巻末付録では、教材とSDGsとの関連や様々な地域の実例を掲載し、探究的な学びにつなげられるよう工夫されている。		哲学的視点を与える教材を各学年に配置しており、人間としてどう生きるかということを探究していくことができるよう工夫されている。
3 内容	(1)内容の選択	病気や災害等で身体や生活に不自由を抱える人との関わりや支援、障害者理解など様々な福祉を考えることができるよう配慮されている。		国や文化の違いやバリアフリーなど、多様な課題に向き合う教材をユニット化し、共生社会について考えることができるようになっている。		多様性に関わる教材が配列されており、人々の違いを認め合い共に生きる社会を創るという意識を育むことができるよう工夫されている。
		現代的な課題と共に、自分自身を見つめることができるページを巻頭に設けることで、関心を高めることができるよう工夫されている。		「いじめ」「情報モラル」「キャリア」「共生社会」といった様々な現代的課題に重点を置き、1学年の中で連続的に学習できるようにユニット化し、そのユニットを3学年で展開し、継続して学びを広げられるよう工夫されている。		「情報モラル」「生命尊重」「キャリア教育」等、現代的な課題を取り扱う教材や、意識的に守り続け価値つけていく伝統文化を取り上げ、文化の担い手としての意識を高める教材が配列されている。
	(2)内容の程度	○ 内容項目が異なる複数の教材を「SDGs」「多様性」「キャリア」というテーマについて、ユニットとして配置することで、「よりよく生きる」ことについて、多面的・多角的に考えを深められるよう、よく工夫されている。		重点的に考えたい四つのテーマがユニット化されている。ユニットごとに扉ページが付けられており、教材のつながりを意識して学びに入ることができるよう工夫されている。ユニット化されたものは、学年を通して学びが深まる仕組みとなっている。		教材末には、グループワークを通して考えを交換し合うための問いが示されており、多面的・多角的な見方や考え方ができるよう工夫されている。
	(3)内容の構成	問題解決的な学習や体験的な学習などに適した教材には、教材末に「学びを深めよう」が設けられており、共に考え合うことで考えを深め、納得解を得られるよう工夫されている。別冊「道徳ノート」で学習を振り返り、生徒自身が成長を実感できるよう工夫されている。		各学年三つの教材に「マイ・プラス」が設定されている。役割演技や問題解決的な学習、体験的な学習ができるように提案されたページとなっている。巻末には、「学習の記録」「1年間の学習の記録」があり、生徒の成長を見取り、評価に生かすことができるよう工夫されている。		問題解決的な学習、体験的な学習を行うことができるよう、教材の特性に合わせて発問や授業展開が考えられている。
4 タブレット端末の活用		いくつかの教材の最初に二次元コードがあり、年表や動画など、教材の理解を深めることができるような工夫がされている。		二次元コードから補助資料を視聴することで、教材には描かれなかったエピソード等を知り、考えを深めることができるよう工夫されている。		二次元コードから、補助教材の写真や年表、プロフィールなどを視聴することができ、生徒がより教材理解をしやすいよう工夫されている。
5 表記・表現及び使用上の便宜等	○	題名下の「キープレーズ」として、教材への関心を高めたり、導入に活用できたりする魅力的な一文が掲載されている。適宜、登場人物のイラストと簡単な紹介が掲載されており、生徒の読み取りに差異が生じないよう、よく工夫されている。		色の識別のみならず、マークの形状やデザインの違いなどで、必要な情報を読み取ることができるよう配慮されている。		1教材あたり4ページを基準として作られており、話し合ったり考え合ったりする時間が十分に確保できるよう配慮されている。
6 印刷・造本等		生徒が読み間違いを起こしにくいユニバーサルデザインフォントが使用されている。		カラーユニバーサルデザインへの対応を含め、ユニバーサルデザインフォントが使用されている。		全ページにわたり、ユニバーサルデザインフォントが使用され、視認性に対する配慮がされている。

※ 着眼点ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。

令和7年度使用教科用図書 調査専門委員会 調査研究報告書「各教科固有の追加調査事項」（種目名 道徳）

発行者 事項	東京書籍		教育出版		光村図書		日本文教		Gakken		あかつき教育図書		日本教科書	
	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴	評価	特徴
道徳的価値の意義や大切さを理解することができるよう内容項目を適切に扱っているか		学校行事や生徒の生活実態に合わせ、指導内容と指導時期を考慮して教材が配置されている。学年ごとの発達段階を踏まえ、内容が少しずつ高度になるよう配慮されている。		短い教材や見て分かる教材に重点を置き、生徒の発達段階や学校生活の実態に即した教材配列によって、効果的な学びになるよう工夫されている。	○	3学年を通じて同じ内容項目を扱う教材は、話題や分量、世界の広がりなどに配慮し、学年に応じて傾斜をつけた内容となっている。ユニットのテーマに沿って、教材を通じて学ぶ内容項目は、緩やかに変わり合いながら学びがつながるよう、配列がよく工夫されている。		重点項目には複数の教材が掲載されている。中学校3年間の発達段階を考慮し、各学年のテーマが設定されており、系統的・発展的に学習できるよう配慮されている。		内容項目が異なる複数の教材を「SDGs」「多様性」「キャリア」というテーマについて、ユニットとして配列することで、道徳的諸価値の理解を深めることができるよう配慮されている。		各教材は、各教科における学習内容や他の教育活動、季節や行事などとの内容的・時期的関連を考慮し、掲載順に取り扱うことで効果的な学習が期待できるよう配列が工夫されている。		学習指導要領の四つの視点の教材を、各視点ごとに連続させて配列することで、それぞれの視点の価値を重点的に理解できるよう工夫されている。
「考え、議論する道徳」に向け、対話しながら考えを深めることができるよう工夫されているか		巻頭に「考え、議論する」を実現するための学習の流れが提示されており、体験的な学習や問題解決的な学習を通して考えを深めることを促している。また、巻末には心情図が付録として付いており、話し合いを活発にする工夫がされている。	○	異なる立場からの考えを取り上げた教材や、登場人物が判断を迫られる教材、短い教材や見て分かる教材が掲載されており、十分に時間をとって議論をすることができるよう、よく工夫されている。		各学年、年間二か所ある「チャレンジ」では、生徒が問いを立て話し合いながら考えを深めていく活動が、様々なバリエーションで紹介されており、議論を深めたり、話すことの大切さが理解できたりするよう工夫されている。		全学年「学びを深めよう」が設定されており、問題解決的な学習や体験的な学習などの手法を用いた学習ができるよう工夫されている。それぞれの学習過程で自分の考えを深めたり、友達と話し合ったり、発表や演技をしたりする活動が適切に示されている。		「道徳科で学ぶこと・考えること」のページでは、思考ツールの使い方や問いの例を示し、話し合いの大切さが理解できるよう工夫されている。		教材を読み、活動を通して、いろいろな視点から考えを深められる「マイプラス」では、いくつかのステップに分けて、問いや対話の仕方を示すことで、議論を深められるよう工夫されている。		巻頭のガイダンスページにおいて、道徳の時間は「みんなにとってよりよい考え方」を考える時間であると示し、話し合いの大切さが理解できるよう工夫されている。
いじめ、生命の尊さ等を適切に扱いながら、生き方について考えることができる内容となっているか	○	「いじめの防止」「生命の尊重」について三つの教材を組み合わせてユニットとして配列し、重点的に取り組むことができるよう工夫されている。道徳教育と防災教育を掛け合わせた防災道徳では、命を守ることを大切さを考えられるよう、よく工夫されている。	○	いじめについては、年度の早い時期に複数教材とコラムからなるユニットを設定し、多様な側面から連続して学ぶことで、人間理解を深め、豊かな人間関係づくりについて実践的に考えられるよう、よく工夫されている。		「いじめを許さない心について考える」ユニットが設けられ、重点的に考えられるよう工夫されている。また、「生命の尊さ」をテーマとした教材が三つずつ位置づけられており、生命の尊さを連続性、有限性、偶然性を始めた様々な側面から考えることができるよう配慮されている。	○	生命の尊さとともに、いじめ問題を重点的に取り扱っている。多様な教材やコラムをユニット化し、複数配置しており、いじめについて、自分たちの問題として主体的に考え、議論できるよう、よく工夫されている。		最も重要なテーマを「いのち」に置き、内容項目「生命の尊さ」では、全ての学年で三つずつ配列し、様々な内容項目でその尊さにあらためて気付くことができるよう配慮されている。また、「いのちの教育」を土台とし、「多様性」と「いじめの防止」の教材を連携させることで、いじめのない社会づくりに取り組んでいる。		「『いじめ』を考える」というテーマで複数教材をユニット化し、連続して複数時間、学習できる配列となっている。各学年5月から6月に重点的に学習できる配列となっている。いじめ防止とともに生命尊重も重要課題として取り上げている。		直接的・間接的な形で「いじめ」を取り巻くテーマが扱われている。特に、学校生活の中でいじめに陥りやすい場面が積極的に取り上げられ、生徒が自分事として、より深く考えられるよう工夫されている。

※ 事項ごとに、特に優れている教科書には評価の欄に○をつけています。